



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138  
osf-midorii1911@codan.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com

OSF (Okamoto Scholarship Foundation) の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

### 曾和英子 (趙 英玉 H10 奨学生、中国)

神戸芸術工科大学のアジアンデザイン研究所の客員研究員

#### 「生きる」ということ

OSF だよりは、いつも楽しみにしております。この度は原稿依頼を受け、改めて千葉での様々な記憶が蘇ります。私の場合、22歳で来日して今年で19年になります。あと少しで

日本の方が長くなると思うと、歳月の経過をしみじみと感じます。我が家には、昨年10月に次男が生まれ、9歳の長男と二人の子供の世話で忙しくなりましたが、周りの暖かい思いやりに支えられながら、子育てを楽しんでおります。偶然にも、昨年より生命樹模様についての研究に携わることとなり、子育て中の私にとって、これは「生きる」について改めて考える良い機会となりました。

樹木は秋を過ぎて樹皮や葉を落とし、春になって再生するし、月の満ち欠けとともにリズムカルに成長します。生命の象徴となる樹に対する崇拜は、世界各地において様々な形で存在しています。「生命樹」は、しばしば宇宙の中心をなす軸、または豊穡をもたらす大地母神として描かれてきました。

日本の場合、江戸時代の小袖に、「立木模様」という生命樹を彷彿とさせる模様が流行った時期がありました。ところが、一般的に見られる「生命樹」が中心軸を意識した形となっているのに対し、日本の「立木模様」は左の腰の部分にわずかな余白を残しながら、右裾から左肩にかけて「うねり」を作っています。この「うねり」は、



厳しい気候環境に耐えながら、なおその強い生命力で上へ上へと成長するたくましい姿を表現しているとのこと。この「立木模様」が流行したのは、大航海時代を経て、海外の様々な文化が一気に流れ込んで来た江戸中期でした。時代の激しいうねりの中で、女性たちは、立木模様の描かれた着物を着て、樹のようにたくましくその時代を生きてきたのだらうと想像されます。

なお、東日本大震災の後、激しい津波に耐え、たった一本残っていた陸前高田の松の木、三陸の桜の木……空に向かって枝をのびし、凜として立っているその姿は、被災地の人々にとって心の希望となり、生きることへの期待を膨らませてくれました。

最近、次男は掴まり立ちをし始め、周りに掴むものさえあれば、おぼつかない足に力を入れて、一生懸命に立ち上がろうとしています。何度も転びながらも、上へ上へと体を立ち上げようとするその姿は、うねりながら天に向かって伸びていく樹の生命力を想像させました。自然の魔力を形にしていた古代人、移り変わる時代を強く生きた江戸期の女性たち、立ち上がることに夢中の赤ちゃん……その生きる力に感動しながら、今を生きる喜びを覚えております。

岡本財団には、千葉大学留学時に大変お世話になりました。特に、様々な交流を通じた国際的なコミュニケーションが、家庭的なぬくもりの中で自然に行われていたことを思い浮かべ、それがわれわれ留学生たちの「生きる力」を育ててくれたと深く感じております。今後とも OSF ファミリーと共に成長していくことを願っております。

### 沈 英謀 (H6 会館生、台湾)

私は1990年から1997年まで日本に留学していました。博士課程では画像処理を勉強し、現在も台湾の大学 (Kun Sun University) で教職の仕事をし、この分野を続けています。博士課程の期間では、三年間会館に住んでいました。私は日本での留学生活は非常によかったと思っています。二つのことが一生忘れられません。



一つは学校で指導教授から研究のことをすごく親切に (一般的に厳しい) 教えていただき、博士学位を取りました。このような素晴らしい先生と出会い、非常にありがたいです。先生のような精神はずっと私の模範です。私が学生と接触するとき、いつもこのような精神を心掛け、学生を大事にします。

もう一つ生活の方では、会長ご夫婦、理事長ご夫婦及び OSF の皆様から、いろいろとお世話になりました。いままでの人生で、一番楽しかった時期が二つあります。青春の大学の生活はもちろん楽しかったです。これは皆様がだいたい共通です。一般的に、留学生

の生活は寂しく、つらいと思われれます。とくに、博士課程の生活はもっとつらいとも言われますが、私はこの三年間会館に住んでいました。学校では研究があまり進んでいなく、ストレスがよくたまりました。このような状況では、博士課程をやめる人は少なくありません。やさしい理事長 (館長) ご夫婦をはじめ、OSF の皆様から精神的に暖かい応援で支えていただき、勉強を放棄しないで、最後やっと学位を取り、こころから感謝しています。

OSFのおかげで、生活が面白くて楽しかったです。また、ほかの国に行かなくても、多くの国の文化をある程度理解できました。特に毎週の水曜日に皆様と一緒に夕食会を用意したとき、一緒に買い物をし、台所で自国の料理を作ったり、話したり、楽しかったです。夕食会が終わってから、会館生もつねに二次会に行き、カラオケで歌を歌ったり、ビールを飲んだり、楽しい学生生活を過ごしたことが懐かしいです。

最後、一つの感想：留学するとき、学校の勉強をするのと同時に、外国の文化をよく理解することが非常に大切であると思います。また、将来退職したあと、私も財団のような能力を生かせる、VOLUNTEERをやりたいと思います。

## オリエンテーション

◎ 4月に奨学生、会館生のオリエンテーションがそれぞれ行われた。新奨学生は初めての例会で緊張した面持ちだった。

二次会に駆けつけてくれたOB



◎ 5月11、12日、奨学生旅行に行く。一日目は雨に降られたが、二日目は気持ちよく晴れて、磯遊びや散策を楽しんだ。



## OB近況

- ◎ 4月14日にモニラさん(H16 会館生、カンボジア)、5月3日コンさん(H14 会館生、カンボジア)が相次いで来日し、来団してくれた。母国で2人力を合わせ会社を立ち上げ、5月12日にはNHKの番組でも取り上げられた。モニラさんの元気な姿が放映された。嬉しい話である。活躍を期待していますよ!!
- ◎ 郭保竹さん(H21 奨学生、中国)が4月に出張で来日。2カ月滞在。早速4月の例会に参加してくれた。また、滞在中は後輩との交流活動に積極的に参加してくれた。
- ◎ 6月7日、付照君さん(H14 奨学生、中国・内モンゴル)が出張で来日し、顔を見せてくれた。深圳にある会社で頑張っている。
- ◎ 6月13日、倪悦勇さん(H17 奨学生、中国)が出張で大阪から来団してくれた。
- ◎ 6月20日、デリパールさん(H12 奨学生、ウイグル自治区)が娘さんを連れて来日しお嬢さん二人と共に来団してくれた。
- ◎ ヒューさん(H6 奨学生、ベトナム)がベトナムで撮ったアコムのCMに出演した。日本でも放映された。

## 北総旅行



## 会館だより

- ◎ ヌリグリさん(H23 ウイグル自治区)が5月15日に退館、帰国した。5月下旬に結婚式を挙げた。トルコで新生活を始めるそうだ。
- ◎ 5月18日に朴明珠君(神田外大、韓国)、
- ◎ 6月8日に蔡虹さん(神田外大、中国)、
- ◎ カンボリスット君(千葉大、ラオス・愛称ジョー君)が入居。
- ◎ 5月22日にアフメさん、グリズムさん夫婦(グリズムさんは明海大、ウイグル自治区)が家族寮に入居。

～たくさん仲間が入ってにぎやかになった。～

## お知らせ

11月16～19日にカンボジアでOB会を開催予定です。カンボジアとその周辺国のOBが集まって旧交を深める会です。その他のOBの諸君もぜひ参加して下さい。希望者の連絡を待っています。

## 10K マラソンに参加

- ◎ 6月8日、幕張で行われた10キロマラソンに参加。初夏を思わせる暑い日であったが、参加したメンディ君、プーヴィエン君、フォン君はがんばって良い汗を流していた。



## 結婚・出産 おめでとう!!

- ◎ 4月に蔡馥榮さん(H19 奨学生、台湾)
  - ◎ 5月に徳志偉さん(H12 会館生、内モンゴル)、
  - ◎ ググンタナさん(H19 奨学、内モンゴル)
- 徳さんは婚約者の方を連れて挨拶に来てくれた。
- ◎ 4月に張翼さん(H12 奨学生、中国)に長女靖善(さやか)ちゃん誕生



6月3日、21日には公益財団として初めての役員会が行われました。新しい役員の方々、これからもどうぞよろしく願っています。



李 大偉 (奨学生) 中国 (江蘇省)

早稲田大学 経済学研究科 応用経済学専攻

### 日本での留学生生活において

#### 苦しかったことと嬉しかったこと

私の故郷は中国の東沿岸部にある小さな町です。幼い頃、海の向こうはどこって親に聞いたら、日本だよって教えられました。まだ子供なので、アニメをはじめ、日本のことに大変興味をもつようになり、将来日本へ行くのが私の夢でした。だんだん大きくなって、日本の文化や経済などにも大変憧れていて、大学で日本語を勉強していました。

大学を卒業して、日系銀行の中国支店で三年間働いていて、仕事を頑張っているうちに、やはりもっと勉強したい、そして幼い頃からの夢を叶えるため、日本へ進学することに決めました。

2011年9月に日本にまいり、きれいな町、優しい人々、便利なコンビニなど何もかも新鮮で、わくわくしましたが、10月から新学期が始まり、大変忙しい毎日が続いていました。一学期目は9科目もとり、学業を奮闘しながら、生活費を稼ぐためアルバイトもしなければなりません。すると睡眠時間は毎日ほぼ4時間しかなく、時々体力の限界を感じていましたが、自分の夢に向かっている、毎日笑顔で頑張っていました。



2012年1月に2000人から数少

ない外国人として、東京スカイツ

リーの展望台運営スタッフに選ばれました。世界一のおもてなしを実現するため、厳しい研修の中で、お辞儀がきれいにできるまで、一日何百回も練習したり、接客用語を完璧に話せるまで、誰もいない公園で思い切り叫んだりして、数え切れない困難を克服してきました。グラウンドオープンしてから、私は中・日・英三ヶ国語を生かして活躍していますが、ほかのスタッフはほとんど外国語が苦手なので、大変苦勞していました。より多くのお客様を楽しませようと、私が日本語の接客用語集を元に、英語と中国語の接客マニュアルを作り、みんなと共有しました。それで、チーム全体の外国語対応を高めることができました。仲間たちと一緒に助け合い、半年で328万人のお客様を事故や混乱なく迎えてきて、今年の「ベストチーム・オブ・ザ・イヤー2012」に選ばれた時は、最高の幸せでした。

将来は日本で働きたいため、今は就職活動をしており、卒論とアルバイト等も重なって、大変忙しい日々ですが、自分の夢に向かい、楽しく頑張っています。

尹凌穎 (奨学生) 中国 (山西省)

千葉大学 工学研究科 建築・都市科学専攻

### 日本での留学生生活において

#### 苦しかったことと嬉しかったこと

日本での留学生生活は、一年余り、多くの時間は試験勉強とアルバイトで明け暮れてきました。苦しかった事は多かったのですが、今考えると全部の苦しかった事が懐かしく感じられます。

日本に来た頃は、日本語もあまりしゃべれなかったし、日本の生活もぜんぜんわかりませんでした。急に住む場所を探すのはとても大変だったし、アルバイトの面接に行ったときもどうしたらいいのか本当に手掛かりがなくて大変でした。経済的な理由で、来日3ヶ月目からスーパーマーケットでアルバイトを始めました。初めの頃は、日本語の聞き取りはもちろん、話すことも大変苦勞していた時期で、仕事をやり遂げることができるのか心配していました。しかし、社員の方はとても優しく、仕事内容について分かりやすい日本語で説明してくださったので、その心配は短期間でなくなりました。今はアルバイトが楽しくて、お客様が私の作った寿司を食べることが幸せと感じています。私もアルバイトを



しながら日本の一番伝統的な食べ

物の最もおいしく作れる方法について

詳しく勉強できるのが嬉しいです。試験準備期間中は、専門知識や日本語について分からないことが多く度々困っていました。日本人と同じ大学院入学試験で、合格するためには他の学生より2倍3倍の時間と努力をかけなければならなかったです。特にアルバイトもしていて、本当に時間が足りないと感じました。自信がそんなになかったため、試験の準備がもっとうまく進めるように、自分の計画を立てました。修士の先輩からノートと資料をもらって、授業の時間も調べてもらって、六ヶ月間一所懸命勉強しました。毎日を繰り返している生活なので、苦しかったですが、いい結果が出て言葉でいえないほど嬉しかったです。その後も自分の計画の一環として12月に日本語一級試験を受けて合格しました。

日本にいる一年は、自分なりに本当に成長したと感じています。周りの友達にも感謝しています。これからも何事にも頑張って取り組み、全力を尽くしていきます。

